

被災地で鎮魂の大輪

“今こそ日本の力を”

会長 大嶋 裕



横浜商科大学同窓会会員ならびにご家族の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げますと共に、日頃より同窓会へのご支援、ご協力に對して心より御礼申し上げます。

平成23年もすでに半年が経過し、その間には、色々な出来事がおこりました。3月には東日本大震災が発生、未曾有の災害となり、併発して原発の事故被害もあり、ある報道では日本も「明治維新」、「敗戦による新たな出発」、そして「今回の震災による復興」と3回目の開国とありました。政局も混乱しているようですが一日も早い復旧、復興を祈念いたします。本学関係者による義援金募集につきましてはご協力いただきました。配賦につきましては大学、育友会、同窓会で検討していくこととしております。また、7月に

第39号

発行
横浜商科大学
同窓会
TEL 045-583-9031
<http://www.shodai-ob.com/>
印刷
(株)サン・プリンティング
TEL 03-3750-6633

は新潟県、福島県を中心として平成16年の災害を越える規模で集中豪雨による災害が起こり被災された方々には衷心よりお見舞い申し上げます。

このような災害のなかで、女子サッカーワールドカップで「なでしこJAPAN」が宿敵アメリカに勝って「優勝」という快挙を達成し、『夢は見ることに、そして実現すること』を改めて感じさせていただきました。ロンドンでのオリンピックでさらなる活躍を期待したいと思えます。

本学に話をもとしますと、平成23年は開学45周年を迎える記念すべき年にあたります。45年前、横浜市鶴見区東寺尾に産声をあげて以来今日まで19000余名の卒業生を輩出、あらゆる面で活躍されていることを聞きするたびに喜びも増してくるよう

校の校舎からスタートし、増改築が行われ今日では「つるみキャンパス」と「みどりキャンパス」が充実し当時の面影は2号館と裏門(当時は正門)を残すのみとなっております。また、開学当初は商学科のみでしたが、現在では貿易・観光学科、経営情報学科の3学科となっております。本学では、開学45周年は内輪での祝賀を行い、5年後の開学50周年には盛大に行いたいという計画を松本理事長から伺っております。本年の開学45周年記念は11月5日(土)に「つるみキャンパス」で開催するご案内と、当日に一昨年より開催しております「ホームカミングデー」の第2回を開催するご案内を大学より預か

り、当会報に同封いたしました。卒業生の皆様には万障お繰り合わせの上、是非ご出席いただきたく存じます。当日はキャンパスで「飯山祭」も開催されておりますので当時を懐かしんでいただけるものと思います。

11月26日(土)には「同窓会総会」を開催いたしますので会員である皆様のご出席をお願いいたします。当日は、教職員をはじめ、退職された教職員の方々もお招きしておりますので当時を懐かしみ、華を咲かせて戴きたく存じます。(詳細は当会報の別ページに記載してありますのでご参照ください。)

末筆ながら会員皆様のますますのご活躍を祈念いたします。



被災地は今

このたびの東日本大震災で被災された方、そのご家族・関係者の皆様に、心からお見舞い申し上げます。また、一日も早い復旧復興をお祈り申し上げます。

私の住む福島県いわき市は、沿岸部は津波、山間部は土砂崩れ、そして原発事故と、甚大な被害を受けました。幸い、私は津波や土砂災害から免れたものの、原発の放射能被害には、今も不安な日々を強いられています。

3月11日、いわき市は震度6弱の地震に視われました。その時間は観測地点最長の3分を記録したそうです。私は、鉄骨ビル3階にある会社で被災しました。天井にはめこんであるエアコンが落ち、キャビネット・書棚は全て倒れ、まるでおもちゃ箱をひっくり返したような惨状でした。揺れの凄さに、しばらく恐怖心がおさまりませんでした。そして頻繁に続く余震。眠ることもできませんでした。

そのような中、思いもしない問題が起きました。福島第一原発事故。原発の存在はもろろん知っていました。でも遠い町の話。こんなに近くにあるとは、この時まで知りませんでした。40キロ。いわきの中心部は原発から約40キロしか離れていないのです。原子炉建屋の爆発。ついに30キロ圏内に避難指示が出ました。いわきも危ないのではなにか？市民の自主避難が始まりました。30万人都市の中心部に人の姿が全く見えなくなりました。放射能を懸念し、輸送業者がいわきへ入るのを嫌がり、物流がストップ。ガソリンも食料も入ってこない。この時代に、食べるものがないなんて、思いもしませんでした。そして数日後、市からヨウ素安定剤が配布されました。いよいよ危ないのか・・・死というものを初めて考えさせられました。不安な日々が続きました。あれから四カ月が過ぎ町は震災前に戻りつつあります。しかし、外で遊ぶ子供の姿は見かけません。

一瞬にして町や故郷が消えた



地震より怖かった原発の脅威。山が、海が、川が、田畑が汚染され、息を吸うことさえ躊躇するような世界。こんな日が来るとは夢にも思いませんでした。経済発展の為、快適な生活の為、犠牲になったものははるかに大きく、尊いものでした。このような事故は二度と起こしてはなりません。近くにないからと、ひとごとだと思わないで下さい。原発は日本国中にあり、事故の被害は限りがありません。今こそ真剣に原発の在り方を考えるべきだと思います。



いわき市・佐藤義文教授撮影

先日は、佐藤先生を通じ、救援物資を送って頂きありがとうございました。

こちらは大地震前にもどり、以前と変わらぬ生活を送っております。沿岸部は町の姿がすっかりなくなりましたが、瓦礫の撤去も大分進み、復興へむけて進んでおります。ただ、原発の事故のせいで農業・漁協・観光業が衰退しております。早く収束するのを祈るばかりです。

平成12年卒

佐藤由弥(旧姓 大橋)

義援金のご協力ありがとうございました。

(6月30日現在 118名 ¥2,056,786)

横浜商科大学在学学生10名が被災されました。

大学・育友会でそれぞれ10万円ずつ支援をし、その内1名には今年度の学費も支援されました。

今回の義援金より10名の在学学生に5万円ずつ支援をし、残りを被災された会員(同窓生)の方々に支援を予定しております。今後も引き続きのご支援お願い致します。

見えない恐怖との闘い・ 福島第一原発

東日本大震災の現状について

平成23年3月11日(金)に発生した今回の震災における被害は、私の住む福島県いわき市にも多大な被害をもたらしました。それは地震のみならず、津波さらには、福島第一原子力発電所の事故をも引き起こしました。

当市でも、沿岸地域は著しい被害を受け、家屋が全壊するどころか、多数の死傷者が津波の犠牲となってしまいました。実際、その光景を目に

したときの驚きは、生涯忘れることはないと思います。

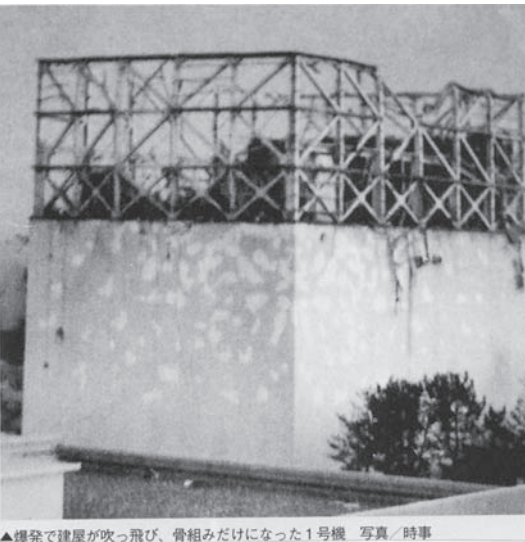
今回の震災の影響で、ライフラインも寸断されたため、生活物資や特にガソリンが供給されない状況が長く続きました。その復旧には、自衛隊をはじめ、多くの自治体の協力がありました。

また、本学からも多くの物資の提供を頂きましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。

このような震災が、二度と



建屋が吹き飛んだ3号機(左)と、壁に大きな穴が空いた4号機
【時事=東電電力提供】

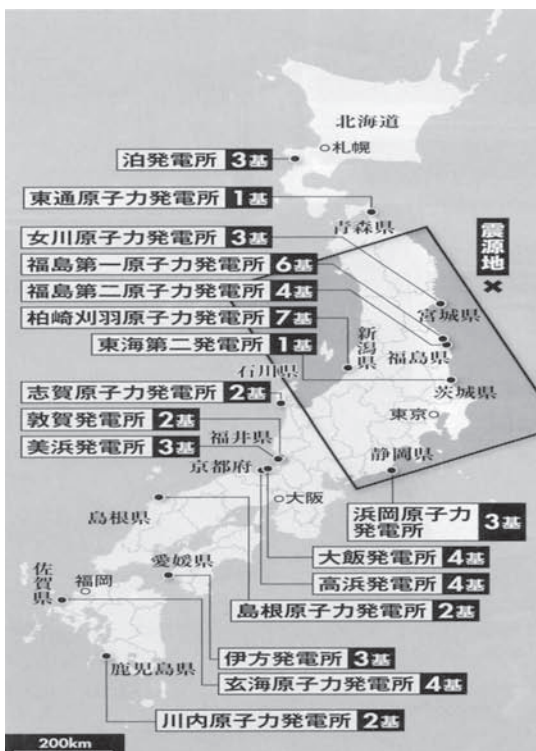


▲爆発で建屋が吹っ飛び、骨組みだけになった1号機 写真/時事

起こらないことを望みますが、今回の震災にあたって、平時より非常時に対しての備えを行っておくことが大切であると感じました。また、このような状況の中で、人との絆や助け合う気持ちがいかに大切かということを学びました。

最後に、全国さらには、世界中が注視する福島第一原発の事故による放射能問題が早期に収束されること、さらには、今後も被災地に対する復興や支援に対してのご協力を、この場をお借りしてお願いいたします。

平成10年卒 芳賀 明広



学長就任のご挨拶

柴田 悟一



同窓会の皆様、はじめまして。7月11日に学長に就任しました柴田悟一です。皆様方におかれましては、益々ご健勝のことと拝察し、お慶び申し上げます。また、皆様方には、日頃より、横浜商科大学発展のために多大なご支援を賜り、心からお礼申しあげます次第です。

本学は今年45周年を迎え、5年後には半世紀という節目の時を刻むことになりました。私は、こういった歴史の流れの中で、学長に選任されましたことの重みを改めて自覚し、本学発展のために、微力ながら努力致したいと思っております。

皆様方は、建学の精神「安んじてことを託さるゝ人となれ」を胸に、それぞれの持ち場において励んでおられることと拝察しております。本学もこの45年の間、内容を充実させ発展してきているところであります。しかし、大学を取り巻く環境は年々不安定性を増し、内外ともに厳しいものが多々発生してきております。こういった中であって、本学を持続的に存続・発展させるためには、本学が抱える諸問題を1つ1つ解決していくことが重要と考えております。その問題の1つは、第三者評価機構の評価を受け、大学としての認定を受けることです。そのためには意思決定過程及び管理機構の確立と透明化、財源問題の解決が鍵となっております。そして、この問題を解決するためには、大学の将来計画を示し、工程表を明らかにし、その計画に

基づいて着実な実行を進めていくことであります。

私が学長に就任する以前に、これらの将来計画の策定、新学部新設、校舎の建て替え等々の計画が、すでに理事会および現場において議論されてきております。そこで、これらの議論を今一度整理し、現在の本学における環境状況と照らし合わせ、実行段階へと歩を進めるようにしたいと考えております。無論、なによりも、これらの計画を、皆様方に少しでも早く公表せねばならないと思っております。これは意思決定過程の透明化の実行でもあります。これらの計画の実行に当たっては、皆様方同窓会のお力が不可欠です。評議員会の方々は、バーである評議員の方々をはじめとする同窓会のすべての方々の諸々のご支援を賜ることによって、本学の持続的存続と発展は可能になって参ります。無論、その前提と致しまして、本学における教職員が一丸となつてことに当たることを皆様方にお約束することは当然であります。そして

私は理事会のメンバーとして、また大学のリーダーとして、先頭に立つ所存であります。どうか皆様方の厚いご支援を心からお願ひ申しあげます。

皆様方のますますのご繁栄と、本学への今後とも変わらぬご教示ご支援をお願い致します。新任のご挨拶とさせていただきます。



〈特待生・奨学生へ表彰状授与式〉

4月7日(木)、つるみキャンパスにて、大学特待生9名に

特待生・奨学生の皆さん



学長が授与、同窓会奨学生3名に副会長が授与と学長以下本学関係者、同窓会役員総勢25名で、受賞者を囲んで軽食を頂きながら和やかに歓談しました。

本来であれば、この授与式は4月2日の入学式終了後に行われる予定でしたが、皆様ご承知のように3月11日の東日本大震災の影響を受け卒業式に続いて入学式も中止になりました。多くの新入生、ご父兄、大学関係者の前での晴れの表彰式ではありませんでしたが、一人一人に表彰状が手渡され受賞者全員が決意表明を述べ有意義な学生生活を送ることを誓っていました。

表彰状授与



新会員紹介

学生時代四年間の思い出

経営情報学科卒

山岸 浩大

横浜商科大学を知ったのは、高校三年の夏の始め頃です。

当時私は大学に進学を考えて

はいたものの、どこの何大
学に入るのかまでは考えてい
ませんでした。そんな時に、

高校の剣道部でお世話になっ
た恩師から横浜商科大学を薦

められました。話や説明を聞
いてみると何かと自分に合っ

ていると思い、それ程迷わず
進学を決意しました。そして

その選択は間違っていないか
ったという出来事が起こります。

関東地区から出場することは
極めて難しいとされる、全日

本学生選手権大会に一年生で
出場することが出来たのです。

それは今でも鮮明に覚えて
おり、出場が懸かった試合で

は40分にも及ぶ死闘を制して
出場権を得たのです。幼い頃

から剣道をして来た中でも、
一番長く苦しい戦いだったと

思います。

ですが、こんな結果を残せ

たというのも、これまでに剣
道を教えて下さった恩師の方

々々や、そういった舞台で試
合をさせて下さった横浜商科

大学とその剣道部、そして何

よりずっと自分の事を支え続
けて来た両親がいてくれたか

らだと私は思います。

私の大学での思い出は、や
はり部活で始まり、部活で終

わったと思います。それほど
までに、私は大学生活を剣道

に費やしてきました。そして
今、人とは多くの人に支えら

れて生きていくことや、常に

感謝の気持ちを失わずに取り
組むことが結果に結び付く

だということを、知ることが
できました。

『笑顔でいること』

商学科卒

鈴木 昭平

「いらつしやいませ。よう

こそお越し下さいました。」

の一言から私とお客様との対

話が始まります。その時の表
情は、笑顔です。接客をする

様になつてからの私は良く笑
い、良く食べ、良く眠る様に

なりました。ハッキリ申しま

すと、学生時代よりも有意義
で楽しい毎日を過ごしており

ます。とは申しまして、毎
日仕事が多くて弱音を吐きそ

うになります。でも決して弱
音も愚痴も吐きません。自分

の気分が下がる言葉は無駄で
しかないことを学生時代に学

びました。だから、私は職場
でも私生活でも弱音や愚痴は

口に出しません。その言葉を
口に出したところで、何も改

善されませんし、何よりも自
分の気分も周囲の雰囲気も悪

くなる。常にポジティブに生
きることは申しませんが、少

でも多く自分をハッピーにし
る人や物に触れるべきだと思

います。

りました。長い長い就職活動

だったと思います。企業の面

接では自分の夢を否定される
こともありましたが、自分の夢

を否定され自暴自棄になり、
人と話しをするのも怖かった

時期もありました。そんな私

を支えて下さったのが、人の
笑顔です。特に家族の笑顔に

何度も救われました。私は、
人の笑顔が無償の愛だと思っ

ています。自分が人の笑顔に
救われたからかは分かりませ

んが、自分も人に笑顔を与え
たいと強く思うようになりました。

この場を借りまして、
私に笑顔を与えて下さった友

人や恩師の方々と何も言わず
に私を信じてくれた家族に感

謝の言葉を言います。私を支
えてくれて本当にありがとうございます。

自分の心の保ち方は人それ
ぞれだと思っています。私は人

の笑顔に支えられて生きてき
ました。これからもそうだと思

います。だからこそ、私はこ

れから出会う人に私の笑顔を
届けたい。それが、私を支え

て下さった方々への恩返しに
なると信じているから。

惜しくも初戦敗退

未来へつなげよう

第60回全日本大学野球選手権
記念大会出場

横浜商科大学硬式野球部の
ナインの皆さん



支部活動報告

教員支部

5/13(金)崎陽軒本店

13名参加

8/25(木)研修会川崎商業高校

飯山会支部

5/14(土)クルーズクルーズ

26名参加

案内発送の返信率が40%超、とにかく出席率を上げる努力をしている。又、有志による震災義援金を飯山会有志として振り込んだ。



不動産支部

6/1(木)大学不動産連盟総会
帝国ホテル 30名参加

上智大学主催で開催され、猪口邦子元内閣府特命担当大臣による講演が行われた。



静岡支部

6/12(日)ホテルセンチュリー
静岡 10名参加 羽田教授の「観光市場の動向」について講演、役員改選があり、山崎成氏が支部長に再任された。



ハンドボール部支部

6/25(土)ホテル池田屋
12名参加



群馬支部

7/2(土)高崎ワシントンホテル
8名参加 経費節減により、支部運営も厳しいが、何とか頑張っている。



教員支部研修会

今年度の教職研修会は、川崎市立商業高校で学生13名と教員支部より7名の参加で行われました。研修内容としては、最初に「教育実習におけるHR運営について」「学習指導案の作り方について」の2つのテーマで教員支部の先生方が講義を行いました。その後、3人の学生が模擬授業を行い、それについて教員支部の先生方より講評をして、指導をしました。



四国支部

7/30(土)道後温泉 5名参加
例年より返信が極端に少なく参加者も少なかった。



今後の支部総会・活動予定

9/10(土) 広島支部総会
9/10(土) 経営情報システム研究支部総会

9/11(日) 新潟支部総会

9/15(木) 不動産支部総会
10/15(土) マーケティング研究会支部総会

11/5(土) 飯山会支部 飯

山祭でフリーマーケットに参加
「昨年に続いての参加です。」

皆さまで協力お願いします。

近況報告

昭和・平成 6年 貿易学科卒業

近況をお知らせください

現在小学校で1年生の担任をしております。毎年参加したいと思っておりますが、都合がつかず欠席していただきます。

昭和・平成 11年 貿易学科卒業

近況をお知らせください

現在、水戸市で「おれ、おれ」の店を営んでいます。今年のアジアパシフィック大会に代表として「バレー」として競技で参加しました。

昭和・平成 17年 貿易学科卒業

昭和

近況をお知らせください

現在、学校法人大塚学園小学校にて「旅行管理」講座の専任講師としております。大学時代に学んだ経験が非常に活かせております。

昭和・平成 62年 商学科卒業

近況をお知らせください

大学卒業して20数年、年数回の会報を見ながら楽しみにしています。

昭和・平成 49年 商学科卒業

近況をお知らせください

福岡在住のため、なかなか支部の集まりに参加することができません。思っている通り、支部の設立を願っております。

昭和・平成 6年 経営情報学科卒業

近況をお知らせください

文教大学の専任講師になり2年目をむかえました。日々勉強の日々を過ごしています。

昭和・平成 63年 経営情報学科卒業

近況をお知らせください

先日、新築田(私の地元)に大学時代の友人が「たずねて来てく山、大々感激して欲しかった」と言っていました。ありがとうございます。

昭和・平成 55年 経営情報学科卒業

近況をお知らせください

今年、息子が高卒を卒業しました。仕事の都合がつかず、出席できませんが、いっしょに親子で出席できればと思います。

昭和

近況をお知らせください

同窓会仲間との大切な交流の場なので、今後とも出席し、出席して頂きたいです。今後ともよろしくお願いいたします。

《お知らせ》

会員の皆様に会報38号で「同窓生子女推薦入試制度」が大学入試管理委員会より発足した旨を記載いたしました。来年度の推薦入試をご希望の方(同窓生の子、孫に限定されます)は、同窓会事務局または大学入試事務局へお問い合わせください。手続きに関する説明と所定の届出書をお送りいたしますので同窓会長宛にご提出ください。

同窓会では都道府県支部を設立しております。遠方の方は各支部総会も年1回開催しておりますのでお時間の都合をつけていただき多数のご出席をお願いいたします。また、未設置の都道府県で設立のご希望があれば、同窓会事務局までお問い合わせ下さい。設立準備のお手伝いもいたします。より多くの都道府県支部の設立を願っております。現在の都道府県支部は、広島・四国・関西(大阪・兵庫・奈良・京都)・静岡・群馬・長野・新潟・福島・宮城と海外には韓国があります。

*連絡先

同窓会事務局 045-583-9031
大学入試事務局 045-571-3901

●資格取得試験合格者●

〈ITパスポート〉

商学科

須田 匠 君 (3年)

貿易・観光学科

長谷川智子さん (4年)

経営情報学科

木村 勇太 君 (3年)

佐藤 俊祐 君 (3年)

鈴木 大樹 君 (3年)

小坂 佳佑 君 (2年)

〈TOEIC 760点〉

貿易・観光学科

バスネット エソダさん (3年)

〈国内旅行業務取扱管理者試験〉

貿易・観光学科

浜田 知彦 君 (4年)

北田百合子さん (1年)

〈税理士試験科目合格(簿記論)〉

商学科

吉澤 政明 君 (4年)

〈日本商工会議所簿記検定2級〉

商学科

姉崎 弦 君 (3年)

松村奈緒美さん (3年)

伊與田光駿 君 (1年)

経営情報学科

額額 哲侑 君 (2年)

同窓会事務局より

〈住所変更の方・ご意見・ご提案など〉

何でもご連絡下さい

〒230-8577 横浜市鶴見区東寺尾 4-11-1

TEL・FAX 045-583-9031 直通(月・火・木・金)

<http://www.shodai-ob.com/>

携帯サイト <http://hp.did.ne.jp/shodai-dousou/>

E-Mail: dousou@shodai.ac.jp

編集後記

会報39号発行のために多くの皆さまにご協力をいただき、ありがとうございます。世界で唯一被爆国である日本、再び見えない敵との戦いが始まろうとしています。この国の今日を築き、支えてきた人々、哀しみを抱きながら歩き出す人々の慈愛と不屈の精神力それが日本人、日本人の力です。今こそ、日本中でその日本力(にほんぢから)を発揮しましょう。希望の光はきっと輝いてくれます!

— 紀 —



第36回 同窓会定期総会 懇親会のご案内 友と先生と共に集い語ろう

日時：平成23年11月26日(土) 午後6時より総会
午後7時より懇親会

場所：新横浜国際ホテル(南館)

TEL 045-473-1311

JR新横浜駅北口徒歩3分、市営地下鉄新横浜駅7番出口より徒歩1分

- 議題：1) 22年度事業報告・決算報告
2) 23年度事業計画・予算案
3) 規約改正(一部)
4) その他

会費：一家族¥5,000(当日会場にてお願いします) **家族同伴大歓迎**

日頃より、同窓会活動に、ご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。
おかげさまで、当会も会員数19,000名を越え、皆さま方、各方面で大活躍されています。

さて、平成22年度定期総会を標記の通り開催いたします。
総会後の懇親会は恩師を囲み、古き良き仲間との語らいの集いとなりますよう、
ご多用中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようご案内申し上げます。

今年卒業された新会員の方は会費無料！

懇親会には教職員の方も多数出席されます。

昨年同様、景品等ご提供・寄附を受け付けておりますのでご協力お願いします。

宿泊希望の方は、同窓会事務局まで

TEL・FAX：045-583-9031

Email：dousou@shodai.ac.jp

http：//www.shodai-ob.com/